

四半期報告書

(第91期第1四半期)

自 平成29年1月1日

至 平成29年3月31日

株式会社福田組

新潟市中央区一番堀通町3番地10

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 3
- (2) 新株予約権等の状況 3
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 3
- (4) ライツプランの内容 3
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 3
- (6) 大株主の状況 3
- (7) 議決権の状況 4

- 2 役員の状況 4

第4 経理の状況 5

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 5
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 7

四半期連結損益計算書

- 第1 四半期連結累計期間 7

四半期連結包括利益計算書

- 第1 四半期連結累計期間 8

- 2 その他 13

第二部 提出会社の保証会社等の情報 13

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年5月10日
【四半期会計期間】	第91期第1四半期（自平成29年1月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	株式会社福田組
【英訳名】	FUKUDA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 太田豊彦
【本店の所在の場所】	新潟市中央区一番堀通町3番地10
【電話番号】	025(266)9111（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 山本武志
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段北3丁目2番4号
【電話番号】	03(5216)4888（大代表）
【事務連絡者氏名】	東京本店管理部長 長谷川和憲
【縦覧に供する場所】	株式会社福田組東京本店 （東京都千代田区九段北3丁目2番4号） 株式会社福田組名古屋支店 （名古屋市中区丸の内3丁目23番8号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第1四半期 連結累計期間	第91期 第1四半期 連結累計期間	第90期
会計期間	自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日	自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日	自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日
売上高 (百万円)	43,805	41,534	172,749
経常利益 (百万円)	3,502	1,888	9,888
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	2,430	1,007	8,482
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,206	950	8,489
純資産額 (百万円)	48,567	54,492	54,848
総資産額 (百万円)	123,728	127,185	119,588
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	54.46	22.63	190.06
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	38.8	42.4	45.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における経営成績につきましては、売上高は建設事業の当期受注は前年を上回る結果となったものの、手持工事の進捗状況が伸び悩んでいたり、不動産案件も減少していることから、前年同四半期と比べて5.2%減の415億円余となりました。

利益面におきましては、他社との競争環境が増していることから工事の粗利益率が前年を下回っていることや、不動産売上総利益の減少などから、売上総利益は前年同四半期と比べて26.9%減の41億円余となり、加えて一般管理費が若干増加したことから、営業利益は前年同四半期を47.4%下回る17億円余となりました。また、法人税等調整額の減少により、親会社株主に帰属する四半期純利益は58.6%減の10億円余となりました。

なお、報告セグメント等の業績は次のとおりであります。

(建設事業)

売上高は前年同四半期と比べ3.8%減の407億円余となり、セグメント利益についても前年同四半期と比べて41.7%減の17億円余となりました。

(不動産事業)

売上高は前年同四半期と比べ50.4%減の6億円余となり、セグメント利益についても前年同四半期と比べて73.3%減の1億円余となりました。

(その他)

売上高は前年同四半期と比べ5.1%減の1億円余となり、セグメント利益についても前年同四半期と比べて47.3%減の1千万円余となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の財政状態につきまして、資産については、売上債権の回収が順調に進んだことから受取手形・完成工事未収入金等は減少したものの、回収資金を月次の下請負代金等の支払に備え、現金預金が増加したため、前連結会計年度末に比べ総資産は75億円余増加し、1,271億円余となりました。

負債については、手持工事量の増加により支払手形・工事未払金等の水準が高まったため、前連結会計年度末に比べて79億円余増加し、726億円余となりました。

また、純資産については、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことから利益剰余金が増加したものの、前期分の配当支払や自己株式の取得などにより、前連結会計年度末に比べて3億円余減少し544億円余となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、31百万円余であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

(注) 平成29年3月28日開催の第90回定時株主総会において、株式の併合に関する議案(5株を1株に併合し、発行可能株式総数を1億株から2千万株に変更)が可決されたため、同7月1日をもって、当社の発行可能株式総数は20,000,000株になります。

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年5月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	44,940,557	44,940,557	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	44,940,557	44,940,557	—	—

(注) 株式併合(当社普通株式5株を1株の割合で併合)の効力発生日である平成29年7月1日をもって、単元株式数は1,000株から100株に変更となる予定であります。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年1月1日～ 平成29年3月31日	—	44,940,557	—	5,158	—	5,996

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 118,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 44,576,000	44,576	—
単元未満株式※	普通株式 246,557	—	—
発行済株式総数	44,940,557	—	—
総株主の議決権	—	44,576	—

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、「株式給付信託（J-ESOP）」制度及び「役員株式給付信託（BBT）」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が保有する当社株式191,000株（議決権191個）が含まれております。

2. 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式695株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
(株)福田組	新潟市中央区一番堀通町3番地10	118,000	—	118,000	0.26

(注) 1. 上記のほか、「株式給付信託（J-ESOP）」制度及び「役員株式給付信託（BBT）」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有している当社株式191,000株は、上記自己名義所有株式数に含めておりません。

2. 平成29年3月16日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期会計期間において自己株式450,000株の取得を実施したことにより、当第1四半期会計期間末における当社所有の自己株式数は、単元未満株式の取得分と合わせて569,559株であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	17,541	34,684
受取手形・完成工事未収入金等	54,474	49,475
有価証券	0	0
販売用不動産	693	728
未成工事支出金	4,220	3,344
不動産事業支出金	422	477
その他のたな卸資産	293	310
繰延税金資産	972	814
その他	8,111	4,038
貸倒引当金	△22	△18
流動資産合計	86,706	93,854
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	20,291	21,384
機械、運搬具及び工具器具備品	13,479	13,528
土地	14,279	14,550
その他	741	787
減価償却累計額	△24,420	△25,090
有形固定資産合計	24,370	25,160
無形固定資産		
のれん	691	642
その他	725	751
無形固定資産合計	1,416	1,394
投資その他の資産		
投資有価証券	5,007	4,798
長期貸付金	52	50
退職給付に係る資産	849	849
繰延税金資産	536	435
その他	1,266	1,260
貸倒引当金	△617	△617
投資その他の資産合計	7,093	6,775
固定資産合計	32,881	33,330
資産合計	119,588	127,185

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	42,503	46,617
短期借入金	2,047	3,008
未払法人税等	986	451
未成工事受入金等	7,126	8,640
引当金	339	1,528
その他	4,320	3,783
流動負債合計	57,323	64,029
固定負債		
長期借入金	1,052	2,177
繰延税金負債	87	83
再評価に係る繰延税金負債	877	901
引当金	294	257
退職給付に係る負債	2,823	2,819
その他	2,281	2,423
固定負債合計	7,416	8,662
負債合計	64,740	72,692
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,158	5,158
資本剰余金	6,132	6,132
利益剰余金	42,381	42,582
自己株式	△269	△739
株主資本合計	53,403	53,134
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,165	1,041
土地再評価差額金	22	22
退職給付に係る調整累計額	△304	△267
その他の包括利益累計額合計	883	796
非支配株主持分	560	561
純資産合計	54,848	54,492
負債純資産合計	119,588	127,185

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
売上高		
完成工事高	40,159	38,287
不動産事業売上高	1,321	649
その他の事業売上高	2,323	2,597
売上高合計	43,805	41,534
売上原価		
完成工事原価	35,201	34,489
不動産事業売上原価	675	471
その他の事業売上原価	2,293	2,457
売上原価合計	38,169	37,417
売上総利益		
完成工事総利益	4,958	3,798
不動産事業総利益	646	178
その他の事業総利益	30	140
売上総利益合計	5,635	4,117
販売費及び一般管理費	2,247	2,335
営業利益	3,388	1,781
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	45	64
持分法による投資利益	0	—
貸倒引当金戻入額	66	0
その他	47	70
営業外収益合計	162	135
営業外費用		
支払利息	27	12
シンジケートローン手数料	13	6
前払金保証料	5	7
その他	1	3
営業外費用合計	48	29
経常利益	3,502	1,888
特別利益		
固定資産売却益	5	0
関係会社株式売却益	—	24
国庫補助金	6	—
その他	—	0
特別利益合計	12	25
特別損失		
固定資産除却損	3	1
投資有価証券評価損	1	2
抱合せ株式消滅差損	—	34
その他	0	—
特別損失合計	5	38
税金等調整前四半期純利益	3,509	1,874
法人税、住民税及び事業税	594	518
法人税等調整額	442	317
法人税等合計	1,036	836
四半期純利益	2,472	1,038
非支配株主に帰属する四半期純利益	41	31
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,430	1,007

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
四半期純利益	2,472	1,038
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△340	△124
土地再評価差額金	42	—
退職給付に係る調整額	33	37
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△0
その他の包括利益合計	△265	△87
四半期包括利益	2,206	950
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,166	920
非支配株主に係る四半期包括利益	40	30

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

下記の会社の金融機関からの借入金に対して保証を行っております。

前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)	
合同会社AKSアセット	642百万円	—	—百万円
ホテル朱鷺メッセ(株)	106	ホテル朱鷺メッセ(株)	98
新潟万代島ビルディング(株)	103	新潟万代島ビルディング(株)	—
株ジオック技研	80	株ジオック技研	80
計	932	計	178

分譲マンションに係る手付金保証

前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)	
1社	73百万円	1社	100百万円

2 受取手形裏書譲渡高

前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)	
	16百万円		16百万円

3 手形流動化に伴う買戻し義務限度額

前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)	
	152百万円		36百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
減価償却費	306百万円	314百万円
のれんの償却額	49	49

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年2月26日 取締役会	普通株式	536	12	平成27年12月31日	平成28年3月30日	利益剰余金

(注)平成28年2月26日取締役会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年2月24日 取締役会	普通株式	806	18	平成28年12月31日	平成29年3月29日	利益剰余金

(注)平成29年2月24日取締役会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

(自己株式の取得)

当社は、平成29年3月16日開催の取締役会の決議に基づき、自己株式450千株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が471百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が739百万円となっております。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得につきましては、平成29年3月17日をもって終了しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	建設	不動産	計		
売上高					
外部顧客への売上高	42,356	1,321	43,678	127	43,805
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	12	19	0	19
計	42,363	1,334	43,697	127	43,825
セグメント利益	2,962	447	3,409	23	3,433

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,409
「その他」の区分の利益	23
セグメント間取引消去	△1
全社費用(注)	△43
四半期連結損益計算書の営業利益	3,388

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成29年1月1日至平成29年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	建設	不動産	計		
売上高					
外部顧客への売上高	40,758	656	41,414	120	41,534
セグメント間の内部売上高又は振替高	7	9	16	0	17
計	40,765	665	41,431	120	41,552
セグメント利益	1,726	119	1,846	12	1,858

（注） 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,846
「その他」の区分の利益	12
セグメント間取引消去	△19
全社費用（注）	△58
四半期連結損益計算書の営業利益	1,781

（注） 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	54円46銭	22円63銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額（百万円）	2,430	1,007
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額（百万円）	2,430	1,007
普通株式の期中平均株式数（千株）	44,632	44,519

（注） 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「株式給付信託（J-ESOP）」制度及び「役員株式給付信託（BBT）」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有している当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（当第1四半期連結累計期間 190,000株、前第1四半期連結累計期間 69,500株）。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2 【その他】

平成29年2月24日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………806百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………18円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成29年3月29日

(注) 平成28年12月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行うものといたします。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成29年5月9日

株式会社福田組

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江島 智 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 塚田 一誠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社福田組の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社福田組及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。